

Constructions of CCA Secure Public Key Encryption and Attribute Based Encryption (CCA 安全な公開鍵暗号と属性ベース暗号の設計)

数理第一研究室 2 年 山田翔太
指導教員：國廣昇准教授

1 背景

属性ベース暗号は、公開鍵暗号の一般化であり、受信者の集合を細かく指定することができる。本研究では、検証可能性または委譲可能性という性質をもち、IND-CPA 安全性という弱い安全性をもつような属性ベース暗号を IND-CCA 安全性という強い安全性をもつ属性ベース暗号に変換する一般的な変換方法を提案した。

2 準備

本節ではまず関数型暗号定義を行う。次にその特殊ケースである Ciphertext-policy ABE (CP-ABE) と Key-policy ABE (KP-ABE) の定義を行う。

2.1 関数型暗号

定義 Σ_k と Σ_e をそれぞれ “鍵属性” と “暗号文属性” の空間とし、 $R: \Sigma_k \times \Sigma_e \rightarrow \{0, 1\}$ を論理関数とする。 R を用いた関数型暗号は Setup , KeyGen , Encrypt , Decrypt , の 4 つのアルゴリズムからなる。

$\text{Setup}(\lambda, \text{des}) \rightarrow (PK, MSK)$: セキュリティパラメータ λ を入力とし、方式の記述 des , 公開鍵 PK , マスター秘密鍵 MSK を出力する。

$\text{KeyGen}(MSK, PK, X) \rightarrow SK_X$: マスター秘密鍵 MSK , 公開鍵 PK , 鍵属性 $X \in \Sigma_k$ を入力とし、 X のための秘密鍵 SK_X を出力する。

$\text{Encrypt}(PK, M, Y) \rightarrow CT$: 公開鍵 PK , メッセージ M , 暗号文属性 $Y \in \Sigma_e$ を入力とし、暗号文 CT を出力する。 Y は CT の中に含まれているものと仮定する。

$\text{Decrypt}(PK, CT, SK_X) \rightarrow M$ or \perp : 公開鍵 PK , 暗号文 CT , 秘密鍵 SK_X を入力とし、メッセージ M , または暗号文が不正であることを示す \perp を出力する。

2.2 属性ベース暗号の定義

定義 1 (KP-ABE). U を属性の空間とする。 U の上のアクセス構造の集合 \mathcal{A} に関する KP-ABE は、論理関数として $R^{KP}: \mathcal{A} \times 2^U \rightarrow \{0, 1\}$ を用いる関数型暗号である。ここで、 R^{KP} は、 $\omega \in \mathbb{A}$ であるときに限り $R^{KP}(\mathbb{A}, \omega) \mapsto 1$ となる関数であると定義する。

定義 2 (CP-ABE). U を属性の空間とし、 U の上のアクセス構造の集合 \mathcal{A} に関する CP-ABE は、論理関数として $R^{CP}: 2^U \times \mathcal{A} \rightarrow \{0, 1\}$ を用いる関数型暗号である。ここで、 R^{CP} は、 $\omega \in \mathbb{A}$ であるときに限り $R^{CP}(\omega, \mathbb{A}) \mapsto 1$ となる関数であると定義する。

Table 1: X', Y' と Subroutine の設定の仕方

変換 CP-ABE1	変換 KP-ABE1
検証可能性を持つ CPA CP-ABE \Rightarrow CCA CP-ABE	検証可能性を持つ CPA KP-ABE \Rightarrow CCA KP-ABE
鍵属性 $X' = X$ 暗号文属性 $Y' = Y \vee (\wedge_{P \in S_{vk}} P)$	鍵属性 $X' = X$ 暗号文属性 $Y' = Y \cup S_{vk}$
Subroutine If Verify (PK, CT, X, S_{vk}) = 0 or \perp Return \perp . Else Return Decrypt ($PK, CT, SK_{X'}$).	Subroutine If Verify ($PK, CT, X, \wedge_{P \in S_{vk}} P$) = 0 or \perp Return \perp . Else Return Decrypt ($PK, CT, SK_{X'}$).
変換 CP-ABE2	変換 KP-ABE2
委譲可能性をもつ CPA CP-ABE \Rightarrow CCA CP-ABE	委譲可能性をもつ CPA KP-ABE \Rightarrow CCA KP-ABE
鍵属性 $X' = X \cup W$ 暗号文属性 $Y' = Y \wedge (\wedge_{P \in S_{vk}} P)$	鍵属性 $X' = X$ 暗号文属性 $Y' = Y \cup S_{vk}$
Subroutine Run Delegate ($PK, SK'_X, X \cup W, X \cup S_{vk}$) $\rightarrow SK_{X \cup S_{vk}}$. Return Decrypt ($PK, CT, SK_{X \cup S_{vk}}$).	Subroutine Run Delegate ($PK, SK'_X, X, X \wedge (\wedge_{P \in S_{vk}} P)$) $\rightarrow SK_{X \wedge (\wedge_{P \in S_{vk}} P)}$. Return Decrypt ($PK, CT, SK_{X \wedge (\wedge_{P \in S_{vk}} P)}$).

3 変換方式

属性空間の設定

- Π が小さい属性の空間をもつならば, W は $W = \{P_{1,0}, P_{1,1}, P_{2,0}, P_{2,1}, \dots, P_{\ell,0}, P_{\ell,1}\}$ と定義される. ダミー属性の集合 $S_{vk} \subset W$ は $S_{vk} = \{P_{1,vk_1}, P_{2,vk_2}, \dots, P_{\ell,vk_\ell}\}$ と定義される. ここで vk_j は vk の j 番目のビットである.
- Π が大きい属性の空間を持つならば, W は $W = \{0, 1\}^\ell$ と定義される. ダミー属性の集合 $S_{vk} \subset W$ は $S_{vk} = \{vk\}$ と定義される.

テンプレート 検証可能性または委譲可能性を持つ CPA 安全な関数型暗号 $\Pi = (\text{Setup}, \text{KeyGen}, \text{Encrypt}, \text{Decrypt})$ を用いて, CCA 安全な関数型暗号 $\Pi' = (\text{Setup}', \text{KeyGen}', \text{Encrypt}', \text{Decrypt}')$ を以下のように構成する. $\Sigma = (\mathcal{G}, \mathcal{S}, \mathcal{V})$ をワンタイム署名とする.

Setup'(λ, U). **Setup**($\lambda, U \cup W$) $\rightarrow (PK, MSK)$ を実行し, (PK, MSK) を出力する.

KeyGen'(MSK, PK, X). **KeyGen**(MSK, PK, X') $\rightarrow SK_{X'}$ を実行し, $SK'_X = SK_{X'}$ を出力する.

Encrypt'(PK, M, Y) $\mathcal{G}(\lambda) \rightarrow (vk, sk)$ を最初に実行する. 次に **Encrypt**(PK, M, Y') $\rightarrow CT$ と $\mathcal{S}(sk, CT) \rightarrow \sigma$ を実行し, $CT' = (vk, CT, \sigma)$ を出力する.

Decrypt'(PK, CT', SK'_X) 最初に, 暗号文 CT' を (vk, CT, σ) と分離する. もし $\mathcal{V}(vk, CT, \sigma) = 0$ ならば \perp を出力し, そうでないならば Subroutine を実行し, 得られた値を出力する.